

教育施設情報

施設名：長崎大学病院

施設基本情報 ※施設情報について、各施設への直接のお問合せはお控えください。

〒852-8501 長崎県長崎市坂本1丁目7-1

URL：<https://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/>

診療科長/指導責任者

コース	診療科長	指導責任者
胸腔鏡/ロボット支援食道切除術コース	金高 賢悟	小林 慎一郎
腹腔鏡/ロボット支援胃切除術コース	金高 賢悟	荒井 淳一
高難度膵・肝切除術コース	江口 晋	原 貴信
腹腔鏡下/ロボット支援肝切除術コース	江口 晋	原 貴信
腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術コース	野中 隆	野中 隆

対応するプラン（コース/プログラム）

- 胸腔鏡下/ロボット支援食道切除術：超短期間型、短期間型、中期間型、長期間型
- 腹腔鏡下/ロボット支援胃切除術：超短期間型、短期間型、中期間型、長期間型
- 高難度膵・肝切除術：超短期間型、短期間型、中期間型、長期間型
- 腹腔鏡下/ロボット支援肝切除術：超短期間型、短期間型、中期間型、長期間型
- 腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術：超短期間型、短期間型、中期間型、長期間型

各コースごとの年間手術件数

胸腔鏡/ロボット支援食道切除術コース	5	件
腹腔鏡/ロボット支援胃切除術コース	10	件
高難度膵・肝切除術コース	40	件
腹腔鏡下/ロボット支援肝切除術コース	40	件
腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術コース	30	件

対応するプランごとの応募要件

コース	プログラム	応募要件
胸腔鏡/ロボット支援食道切除術コース		技術認定取得を目指す医師、ロボット手術を始めたい医師
	超短期	胸腔鏡下食道手術の参加経験（助手、術者）がある。
	短期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医を取得済みである。
	中期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医、消化器外科専門医を取得済みである。
	長期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医、

		消化器外科専門医を取得済みである。
--	--	-------------------

コース	プログラム	応募要件 技術認定取得を目指す医師、ロボット手術を始めたい医師
腹腔鏡/ロボット支援胃切除術コース	超短期	腹腔鏡/ロボット胃切除術の参加経験（助手、術者）がある
	短期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医を取得済みである。
	中期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医、消化器外科専門医を取得済みである。
	長期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医、消化器外科専門医を取得済みである。

コース	プログラム	応募要件 高度技能医取得を目指す医師
高難度膵・肝切除術コース	超短期	高難度膵・肝切除の参加経験（助手、術者）がある。
	短期	日本肝胆膵外科学会高度技能専門医資格を取得することを目標としている。外科専門医、消化器外科専門医を取得済みである。
	中期	日本肝胆膵外科学会高度技能専門医資格を取得することを目標としている。外科専門医、消化器外科専門医を取得済みである。
	長期	日本肝胆膵外科学会高度技能専門医資格を取得することを目標としている。外科専門医、消化器外科専門医を取得済みである。

コース	プログラム	応募要件 技術認定取得を目指す医師、ロボット手術を始めたい医師
腹腔鏡下/ロボット支援肝切除術コース	超短期	腹腔鏡/ロボット肝切除の参加経験（助手、術者）がある。
	短期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医を取得済みである。
	中期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医、消化器外科専門医を取得済みである。
	長期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医、消化器外科専門医を取得済みである。

コース	プログラム	応募要件 技術認定取得を目指す医師、ロボット手術を導入したい医師、ロボット手術を極めたい医師
腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術コース	超短期	腹腔鏡/ロボット手術において悪性腫瘍手術の術者/助手の経験がある。
	短期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医を取得済みである。
	中期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医、消化器外科専門医を取得済みである。
	長期	内視鏡外科技術認定資格を取得することを目標としている。外科専門医、

		消化器外科専門医を取得済みである。
--	--	-------------------

対応するプランごとの到達目標

コース	プログラム	到達目標
胸腔鏡/ロボット支援食道切除術コース	超短期	術野展開、鉗子操作の理論が理解できる。(目標経験症例数：1 例)
	短期	助手として手術に参加し自律的に動くことができる。(目標経験症例数：2 例)
	中期	指導医のもと胸腔鏡下食道切除術が安全に完遂できる。(目標経験症例数：10 例)
	長期	胸腔鏡下食道切除術において助手らに対し適切な指示が出せ、執刀医として手術を安全に完遂できる。指導医のもとロボット支援食道切除術が安全に完遂できる。 6 か月の研修移行は数例の胸腔鏡下手術施行が可能な見込み。 ロボット支援食道切除に関しては、胸腔鏡手技の習得状況次第です。

コース	プログラム	到達目標
腹腔鏡/ロボット支援胃切除術コース	超短期	術野展開、鉗子操作の理論が理解できる。(目標経験症例数：1 例)
	短期	助手として手術に参加し自律的に動くことができる。(目標経験症例数：2 例)
	中期	指導医のもと、腹腔鏡/ロボット支援幽門側胃切除術が完遂できる。(目標経験症例数：10 例)
	長期	腹腔鏡/ロボット支援胃切除術が完遂できる。指導医のもと腹腔鏡/ロボット支援胃全摘が安全に完遂できる。(目標経験症例数：10 例) 6 か月の研修移行は数例の腹腔鏡下手術施行が可能な見込み。 ロボット支援下胃切除に関しては、腹腔鏡手技の習得状況次第です。

コース	プログラム	到達目標
高難度膵・肝切除術コース	超短期	高難度膵・肝切除術を学び、自施設での実践に繋げることを目標とする。(目標経験症例数：1 例)
	短期	高難度膵・肝切除術の手術内容を把握し、手術における助手の役割を理解し、実践できる。(目標経験症例数：2 例)
	中期	高難度膵・肝切除術の手術計画を立案し、手術における助手を担当し、周術期管理にも習熟する。(目標経験症例数：20 例)
	長期	高難度膵・肝切除術の手術計画を立案し、手術における助手、周術期管理を担当する。指導医の下、術者として完遂できる。(目標経験症例数：40 例) 6 か月の研修以降は高難度膵・肝切除あるいは肝移植レシピエント手術の執刀を経験する。

コース	プログラム	到達目標
腹腔鏡下/ロボッ	超短期	腹腔鏡下/ロボット支援肝切除術を学び、自施設での実践に繋げることを

ト支援肝切除術コース		目標とする。(目標経験症例数：1 例)
	短期	腹腔鏡下/ロボット支援肝切除術の内容を把握し、手術における助手の役割を理解し、実践できる。(目標経験症例数：2 例)
	中期	腹腔鏡下/ロボット支援肝切除術の手術計画を立案し、手術における助手を担当し、周術期管理にも習熟する。(目標経験症例数：20 例)
	長期	腹腔鏡下/ロボット支援肝切除術の手術計画を立案し、手術における助手、周術期管理を担当する。指導医の下、術者として完遂できる。(目標経験症例数：40 例) 6 か月の研修以降は高難度腹腔鏡下肝切除(Difficulty score High 以下)の執刀を経験する。ロボット支援下についてはCertificate を取得し、執刀に適切な症例があれば執刀を経験できる。

コース	プログラム	到達目標
腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術コース	超短期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とする。(目標経験症例数：1 例)
	短期	低・中難度手術症例を指導医の下、完遂できる。(目標経験症例数：2 例)
	中期	高難度手術症例を指導医の下、完遂できる。(目標経験症例数：10 例)
	長期	腹腔鏡/ロボット手術による技術認定医取得に必要な症例ビデオを作成する。(目標経験症例数：30 例) 到達目標 3 か月なら1症例執刀(ロボット:院内サート対応可能なら) それ以降は 1 月に 1 症例はロボットか腹腔鏡手術を振りあて

給与（中期間型プログラムおよび、長期間型プログラム）

- 中期間型プログラム、長期間型プログラムともに給与の支給：あり
- ★医師免許取得 11 年以上（今年度は、H28.3.31 までに医師免許取得医師）
- 日給：14,500 円 （月給：約 29 万円（時間外、通勤手当等含まず））
- ★上記以外
- 日給：13,500 円 （月給：約 27 万円（時間外、通勤手当等含まず））
- 外勤が可能か否かは現時点では未定です。

福利厚生

- 住宅手当/社宅：なし
- 院内保育園/提携保育園：なし

施設の特徴：

- ✓ 手術に多く参加することができる。
- ✓ 幅広い症例を経験できる。
- ✓ ロボット支援手術を積極的に取り入れている。
- ✓ 手厚い指導が受けられる。
- ✓ 修練のシステムが確立している。
- ✓ 力量や修練期間に合わせて修練目標・プランの考慮が可能。

- ✓ 研究・学術活動の機会がある。
- ✓ 他診療科との連携が強い。

施設からの一言： 長崎大学外科ではできる限り若い世代を中心に手術執刀の機会を与えるようにしています。加えて、令和7年より旧第一外科、旧第二外科が統合され、外科学大講座として新たなスタートを切っており、各診療科で垣根のない診療を行っております。この統合によってますます多様な手術を行うようになりましました。選択されたプログラム以外の手術の見学も可能ですので、長崎大学病院にて消化器外科医としての幅広い経験が積めると確信しております。